

研究主題

主体的に学ぶ生徒の育成

副題

～地域や学校の特色を活かした効果的な学び～

I 研究の内容

1 主題設定の理由

本校は、昨年度から「少子化・人口減少に対応した活力ある学校教育推進事業」と「コミュニティ・スクール導入等促進事業」の研究指定を受けている。小規模校だからこそその特色や環境を活かした教育を行うため、先進的ICT環境を整えることで、地域活性化の取組、学校連携ネットワークの構築及び交流、同期型CSCL授業の開発などの研究を進めていくものである。またコミュニティ・スクールは、地域の人的・物的資源を活用し社会と目標を共有・連携しながら、共同して生徒たちの育成を目指すものである。

本校は全校生徒28名の小規模校である。そのため、「一人ひとりに目が行き届き、細やかな指導ができる」ことや「互いによく知っており、学年・性別関係なく仲が良い」こと、「全員が何らかの役割を担うことで活躍の場が与えられる」などの利点がある。しかし、少人数であるがゆえに「人間関係の固定化」や「コミュニケーション能力の低さ」など克服すべき点もみられる。コミュニケーション能力の育成は、限られた人間関係の中だけでは難しい。そのため、本校では数年前より積極的に近隣の学校との交流の機会を設けてきた。各クラス10人以下のため、毎日の授業の中でも多種多様な意見に触れる機会が少なく、視野が広がりにくい。また、経験の少なさから状況に応じて求められる態度の違いがわからないことなどまだまだ課題が多い。

大和地域は、以前より学校と地域のつながりが密である。地域の伝承芸能である「巫女の舞」や信玄公祭り、勝頼公祭り等の地域行事もあり、自然豊かで歴史的・文化的な観光資源にも恵まれている。そんなふるさとの素晴らしさについて学び誇りに思うことで、どこへいっても自信を持って力強く生きていける人になってほしいと願い、地域学習を取り入れてきた。今回の指定をきっかけとして、地域学習をより一層深めていきたいと考える。

以上のことから、今年度は少人数ならではの授業の工夫による学力の向上と、地域と連携することで地域学習をより深めるための研究を進めていく。少人数の利点を最大限に生かしながら、逆に少人数であるがゆえの課題点の克服を目指したい。課題設定の工夫や、展開の工夫、効果的な教材の利用やICT機器の活用などを通して、自らが積極的に学ぶことを目指していきたい。

2 具体的な研究内容

1) 地域資源を活用した授業づくり

- ・地域と結びつく（組織作り）
- ・地域の力を活用する（人材活用）
- ・地域から学び、地域人としての誇りを持つ（地域学習、カリキュラムづくり）

2) 少人数であることを活かした学習活動の工夫

- ・ICT機器について学び、活用する
- ・ICTの有効な活用方法や指導法の研究・検証

- ・大和プロジェクトの継続研究
- ・一人一実践

3) 甲州市「確かな学力」育成プロジェクトと連携した学力の向上

- ・甲州市「ティーチャーズ・ノート」を基盤とした授業づくり
- ・Q-Uの分析をもとにした学級づくり
- ・地域・保護者との連携

3 研究の経過

1) 地域資源を活用した授業づくり

- ・地域の人材を活用した授業研究
2年 総合的な学習の時間「人生と職業」 *指導主事招聘
- ・地域の人材活用のための組織づくり

2) 少人数であることを活かした学習活動の工夫

- ・ICTの導入とICT学習会(edutab・タブレット・ポリコムの説明と活用方法)
- ・ICT利用のための整備やルール確認
- ・ICTを活用しての一人一実践
- ・大和プロジェクトの継続研究

3) 甲州市「確かな学力」育成プロジェクトと連携した学力の向上

- ・Q-U分析をもとにした学級づくり
- ・ティーチャーズノートを基盤とした授業づくり
- ・地域・保護者との連携

II 成果と課題

1 成果

研究2年目となる今年度は、昨年の研究をもとにiPadやedutabのさらなる活用を目指した研究に加えて、テレビ会議システムを用いた勝沼中との交流授業についての研究を進めてきた。ICT機器の活用については、全職員がタブレットやエデュタブを日常的に活用することができるようになり、生徒たちも授業でタブレットを使うことに慣れてきた。ちょっとした工夫で、無駄な手間を省き学習を進めることができるようになってきている。TV会議システムを活用した勝沼中との交流授業も、全学年で行うことができた。その中で、地域に関わる内容に取り組み、それぞれの地域について考え対話する活動を取り入れた。多様な考えに触れ、自分なりに考えを深められた等の感想も見られ、主体的で深い学びにつなげることができた。

2 課題

ICTについては、今ある機器を無駄なく使いこなしてそれぞれの授業で日常的に活用していきたい。そのためにも、2年間の研究の中で得てきた成果を最大限に生かしながら、新たに導入した機器の活用方法やタブレットのより広範囲な活用方法を全職員で検討していきたいと考えている。そしてTV会議システムを活用し、近隣の学校との交流を積極的に行っていけるとよい。また、地域学習についても大和小と連携を深めながら、内容を重複させることなく進めていきたい。(研究主任 前島香織)